

毎週決まった時間
に隣のマンション
のお姉さんと裸で
たっぷりエッチ

「色々迷っちゃうからさ、時間決めとかない??」

お姉さんは俺の自宅マンションの玄関
先でクネクネと腰を振って見せた。

ドアは開いている。

俺は靴棚に手をかけて腰が砕けそうに
なるのをやっとのことで支えていた。

・・・ことは急遽、起こった。

マンションの玄関の前で温泉へ行こう
とタクシーを待っていると・・・

「ねえねえ、リュウキくん！！」

お姉さんが外階段を駆け下りてきた。

俺の自宅は三階。このマンションはエレベーターが無いいため皆、階段を利用している。

「どこ行くの??」

お姉さんとは引っ越し当初やそれから

少し経った頃、軽く挨拶を交わしたことの
ある程度だった。

「えっ・・・・・・・・温泉ですけど」

「じゃあさ、私も一緒に行く行くううっ
っっ！！！」

お姉さんは胸元の谷間を寄せた。

薄紫のワンピースである。下はひざ丈のスカート。

俺は突如でびっくりはしたが、

ノリノリでタクシー後部座席にお姉さんと乗り込んだ。

なにかのきっかけ巡り合わせがあった

のだろうか。お姉さんは火照っているように顔を赤らめていた。

駅前の南側は、昔は山や草っぱらだったのが整備されてショッピングセンターなどが立ち並ぶ。

その一角の温泉施設。カプセルホテルなどもある。

お姉さんは俺に言った。

「ねえねえっ！！！！男風呂にあたり入
っちゃおうかなあ??」

結局、お姉さんは男風呂へ・・・・・・・・・・。

従業員の男性も飽きれて見て見ないふ

り 。

高速道路を走る猛スピードのバイクの
ような展開。

その夜、俺たちがエッチなことで燃え上
ったのは当然の流れであった。

ベッドは激しく揺れ動いていた。

この夜、お姉さんとしっかり俺は約束した、

セックスの時間を。

毎週水曜と金曜日の午後 6 時にマンションの二階廊下で待ち合わせ。

以来、

俺はいつもシャワーを浴びた後、

靴を履いて二階へと降りていく。

シャワーを浴びている最中はおへソに
巨根が張り付くほどの興奮状態。

風俗だって経験もないわけではないが、

興奮の度合いが比ではない・

本当の愛って本当のセックスって

・・・・・・・・・・これなんだ！！！！！！！！

お姉さんと二階の廊下で素っ裸になった。
た。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)